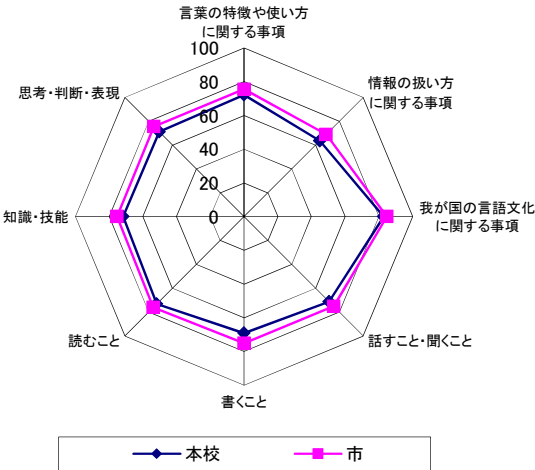


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 72.3 | 75.6 | 66.5 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 63.6 | 69.0 | 62.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 82.8 | 84.7 | 78.2 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 71.4 | 75.3 | 69.4 |
|     | 書くこと            | 69.1 | 75.2 | 65.1 |
|     | 読むこと            | 73.2 | 76.2 | 68.8 |
| 観点別 | 知識・技能           | 71.7 | 75.3 | 66.7 |
|     | 思考・判断・表現        | 71.1 | 75.6 | 67.3 |
|     |                 |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

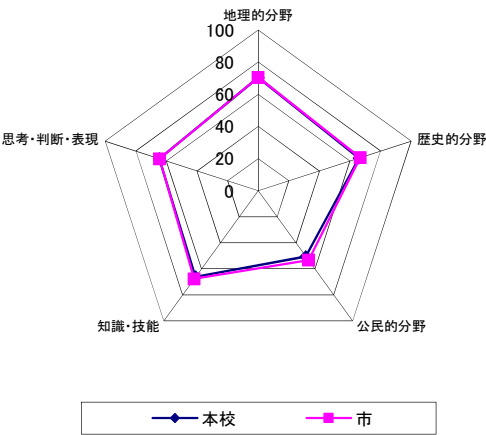
| 領域              | 本年度の状況                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 正答率は、市平均3.3をポイント下回った。<br>○漢字の読み書きについては6問中5問で全国平均を、そのうち1問は市平均を上回っている。<br>○文法・語句に関する事項では全ての設問で全国平均を0.6～16.6ポイント上回っている。<br>●小学校で学習した漢字の書き取りの正答率が低く、市平均を4.5ポイント下回った設問があった。           | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・文法に関する事項については、中学3年の文法学習を行う際に中学1、2年の復習を行ったことが、市平均との差を縮めることに功を奏したと考えられる。漢字の読み書き、文法・語句に関する事項のいずれにおいても、小学校での学習を含め既習事項を復習し、定着を図るためにAIDリルの利活用を増やすなど、繰り返し取り組むこと、個に応じた復習を行うことを系統的、継続的にやっていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項    | 正答率は、市平均5.3をポイント下回った。<br>○情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しているかを問う設問で、自分の考えを書くことに対する苦手意識が低減していることがうかがえた。<br>●情報と情報との関係について理解しているかを問う設問で、設問の指示に当てはめて答える問いへの解答指示違反が見られた。 | ・随筆や少年の主張などの作文学習や、授業の振り返りをスケールタクトを用いて文章にまとめることなどを、継続して行ってきたことにより、自分の考えを書くことについては抵抗が減ってきている。一方で、文や文章の一部に適した語句を補う問いのように、答え方、述べ方を定められて書く際、相応しくない言葉遣いや抜き出し間違いなど、解答指示に合わないために正答と見なされない例が目立ったため、今後は問いに答える練習を計画的に行っていく。  |
| 我が国の言語文化に関する事項  | 正答率は、市平均を1.9ポイント下回った。<br>○古文を現代語訳を手がかりに読む設問では8割以上の正答率で、他の領域より高い。<br>●中学2年までの学習内容で解答できる設問で市平均を下回っている。                                                                             | ・古典学習については、年間を通して行うことがなく、既習事項の定着が課題である。中学3年の古典学習を行う際に中学1、2年の復習を行ったことについては今後とも継続しつつ、より定着が図れるよう問題練習やAIDリルの利活用等を系統的かつ継続的に取り組んでいく。                                                                                    |
| 話すこと・聞くこと       | 正答率は、市平均を3.9ポイント下回った。<br>○全ての設問で全国平均を上回っており、話の展開を予測しながら聞く設問では、正答率が8割以上で高い。<br>●発表の内容を聞き取れているかの設問で、2つの種類について答えるところを片方みの解答にした事例が見られた。                                              | ・聞き取ることについての抵抗は小さいものの、聞き取った内容を、指示された述べ方に言い換えて解答するところでのつまずきが見られた。話の展開を予測しながら聞いたり、目的意識をもって聞いたりできるよう指導していく。                                                                                                          |
| 書くこと            | 正答率は、市平均を6.1ポイント下回った。<br>○8～10行の文章を書く問題では、8割の生徒が指定された長さで文章を書くことができ、全国平均を11.9ポイント上回っている。<br>●論理の展開を考えて、文章の構成を工夫する設問や、分かりやすく伝えるように工夫する設問で、全国平均を下回るものがあった。                          | ・自分の考えを書く活動を充実させてきたことで苦手意識が低減してきたが、解答指示に合わないために正答と見なされない例が見られた。指定された条件のもとに読み取った内容や自分の考えを明確にし、目的や意図に応じた表現で書けるよう指導していく。                                                                                             |
| 読むこと            | 正答率は、市平均を3.0ポイント下回った。<br>○文章の構成や論理の展開について評価しながら読み取る設問で、市平均を1.4ポイント上回っている。<br>●文学的な文章の読解で、内容について理解したり文章を読んで考えを広げたり深めたりする設問では、市平均を僅かに下回る結果であったが、物語の展開を捉える設問では市平均を7.1ポイント下回っている。    | ・説明的な文章についても、文学的な文章についても、内容を読み取ることについては、継続的な読書に関する学習活動により、理解度が高まっている。文章を読んで考えを広げたり深めたりするために、グループ活動を適切に位置づけるなど、指導を充実させる。                                                                                           |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 地理的分野    | 70.4 | 70.5 | 62.1 |
|     | 歴史的分野    | 65.9 | 66.6 | 57.8 |
|     | 公民的分野    | 50.5 | 53.3 | 45.2 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 66.2 | 67.6 | 59.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 64.7 | 64.5 | 55.7 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

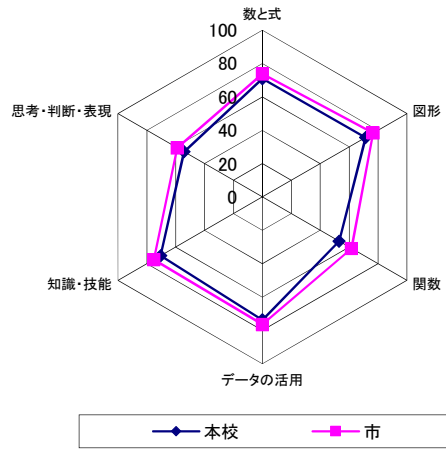
| 領域    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地理的分野 | 正答率は、市平均を0.1ポイント下回った。<br>○「世界の姿」「世界各地の人々の生活と環境」の分野ではほぼ全ての問題で市平均を上回っている。<br>○世界地理について、全体的に正答率が高かった。<br>●「日本の地域的特色と地域区分」「日本の諸地域」の分野では、市平均を下回る設問が多い。<br>●エネルギーに関する設問の正答率が低く、資料をもとに考察し表現する力が身に付いていない。 | ・資料の読み取り方を丁寧に扱うとともに、提示する資料を工夫して指導していく。<br>・ICTを活用し、複数資料をもとに読み取れる事などを共有したり、様々な情報を読み取りその結果をまとめたりする学習活動を多く取り入れる。<br>・授業内で身近な事例を取り上げることで、地理と自分たちのつながりを意識させる。       |
| 歴史的分野 | 正答率は、市平均を0.7ポイント下回った。<br>○「古代」「中世の日本」の分野では、ほぼ全ての設問で市平均を上回っている。<br>○選択式問題の正答率がほぼ市と同等か上回っている。<br>●「江戸時代」「明治時代」の分野では、短文問題の正答率が市平均と比べ低く、基礎・基本の定着が不十分である。<br>●人々の文化に関する設問の正答率が低い。                      | ・資料の読み取りのポイントを明確にしたり、なぜその資料が使われたのか考えさせたりすることで、学んだ知識を活かせる問いを工夫する。<br>・年表を活用し、時代の流れと出来事を大まかに掴み、出来事を並び替える問題に対応できるよう指導する。<br>・授業内で復習の時間を設け、基礎的・基本的な知識や技能を確実に理解させる。 |
| 公民的分野 | 正答率は、市平均を2.8ポイント下回った。<br>○記述式の解答では市平均を上回っている。<br>○資料を活用し考察する設問では正答率が高い。<br>●「公共の福祉」「社会権」など憲法における基礎的・基本的な知識を問う設問の正答率が低い。                                                                           | ・現代社会の問題に目を向けられるように、定期的に導入部分で身近な問題や最近のニュースを取り上げる。<br>・現代社会で議論されている問題を授業内で取り上げ、実際に考え話し合うことで、多面的・多角的に思考力を育成する。                                                   |
|       |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                |
|       |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                |
|       |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と式      | 70.9 | 73.8 | 71.4 |
|     | 図形       | 71.4 | 76.7 | 67.9 |
|     | 関数       | 53.2 | 61.6 | 52.2 |
|     | データの活用   | 73.7 | 76.4 | 65.4 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 70.5 | 75.2 | 69.9 |
|     | 思考・判断・表現 | 54.3 | 58.9 | 48.3 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

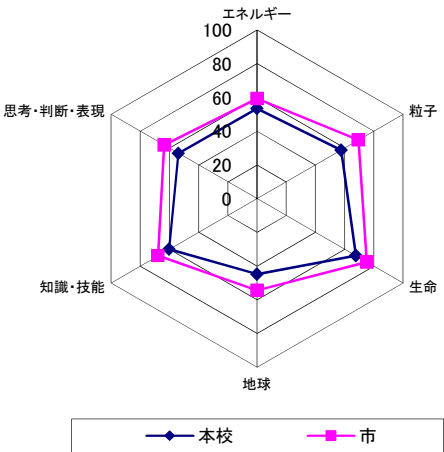
| 領域     | 本年度の状況                                                                                                                      | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                              |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式    | 正答率は、市平均を2.9ポイント下回った。<br>○「連続する偶数を表す文字式」に関する設問では、市平均を1.5ポイント上回っている。<br>●「与えられた文章問題に対して、適切な方程式を立式する」設問では、3.7ポイント下回っている。      | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・2次方程式の様々な解き方に対応できるように、因数分解や平方根の問題演習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図るとともに、式の形によって適切な解き方を選択できるように、2次方程式の問題演習も継続的に行っていく。<br>・様々な状況に合わせて立式できるよう、文章問題を読み解く機会や数式や記号を活用する有用性を実感する体験を増やし、文章を効率よく表現できるよう指導していく。 |
| 図形     | 正答率は、市平均を5.3ポイント下回った。<br>○「おうぎ形の面積を求める」設問では、市平均を1.4ポイント上回っている。<br>●「多角形の内角・外角の和について理解し、角の大きさを求める」設問では、市平均を2.0ポイント下回っている。    | ・垂直二等分線、角の二等分線、円の接線などの基本的な作図の定着を図り、その作図が成立する本質的な理由にも目を向け、2点から等距離であることや2直線から等距離であることを実感できるよう指導していく。<br>・錯角や同位角、対頂角などの基本的な図形の性質の定着を図っていき、同じ大きさの角を探して見つける練習を繰り返し行っていく。                                                   |
| 関数     | 正答率は、市平均を8.4ポイント下回った。<br>●「与えられた1次関数のxとyの増加量から、変化の割合を求める」設問では市平均を7.8ポイント、「2次関数の座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求める」設問では、市平均を3.1ポイント下回っている。 | ・1次関数において、関数の式が決定するために必要な条件を抑え、様々なパターンの問題を解く学習を取り入れていく。<br>・1次関数と、yがxの2乗に比例する関数の複合問題で、面積を求めたり、座標を求める問題演習を継続的に行っていく。<br>・身の回りの状況における、道のり、速さ、時間に関するグラフを読み取る問題やダイアグラムなど、頻出問題を反復して演習していく。                                 |
| データの活用 | 正答率は、市平均を2.7ポイント下回った。<br>○「ヒストグラムの特徴を読み取り、数学的に説明する」設問では、市平均を0.3ポイント上回っている。<br>●「さいころを投げたときの確率を求める」問題では、市平均を1.4ポイント下回っている。   | ・代表値、箱ひげ図、相対度数など、データの活用に関する基礎的な知識・技能の定着を図り、コインやサイコロを用いた基礎的な確率の問題を解けるように指導する。<br>・問題文の状況を読み取り、適切な箱ひげ図やヒストグラムを選択する問題を解く際に、選択した理由を説明する表現力を身に付けられるよう指導を工夫していく。                                                            |
|        |                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                       |
|        |                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                       |

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | エネルギー    | 53.4 | 59.3 | 62.1 |
|     | 粒子       | 57.6 | 69.5 | 66.8 |
|     | 生命       | 67.7 | 75.2 | 70.9 |
|     | 地球       | 44.8 | 54.4 | 52.0 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 60.2 | 67.7 | 67.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 53.8 | 63.7 | 60.8 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

| 領域    | 本年度の状況                                                                                                                                                      | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                             |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エネルギー | 正答率は、市平均を5.9ポイント下回った。<br>○コイルを流れる電流の実験で「方位磁針のN極のさす向き」を求める設問では、市平均を4.5ポイント上回っている。<br>●斜面を下る台車の運動のようすを調べる実験で「台車の平均の速さを求める」設問では、市平均を12.7ポイント下回っている。            | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・「実験で得られたデータをグラフ化する」「データから規則性を読み取る」「計算する」ことを苦手とする傾向があるので、グラフの書き方や読み取り方、計算方法をその都度指導し、演習問題を解くことで定着につなげていく。<br>・実験や観察にともなう理科用語などの知識の定着を図るために、ノートやワーク、小テストでの振り返りをしっかりと行っていく。 |
| 粒子    | 正答率は、市平均11.9をポイント下回った。<br>●物質の成り立ちを調べる実験で「試験管の中の物質が金属の性質を持っているか」を求める設問では、市平均を19.3ポイント下回っている。<br>●塩化銅水溶液の電気分解を調べる実験で「電離のようす」を表現する用語の設問では、市平均を12.7ポイント下回っている。 | ・実験後、まとめ、考察の時間を十分にとるとともに、ワークシートを適切に使い、自分の力でまとめられるよう指導する。<br>・イオンの学習では、教師の十分な説明の他に、グループ学習や発表も加え、生徒のつまづきや理解の深化、定着につなぐ授業展開を工夫する。                                                                        |
| 生命    | 正答率は、市平均を7.5ポイント下回った。<br>○被子植物のめしべのつくりについて「細胞の核の合体について」説明する設問では、市平均を1.7ポイント上回っている。<br>●被子植物のめしべのつくりについて「染色体が半分になる特別な細胞分裂」の名称を問う設問では、市平均を17.4ポイント下回っている。     | ・生物分野の単元においても、できる限り実験や観察を取り入れ、体験型の授業展開を重視する。また、観察が難しい内容では、視覚教材や一人一台端末を利用して生徒の理解・定着につなげる。<br>・重要語句を正確に定着させるために、小テストや単元テスト、ワークブック、AIドリルなど、繰り返し学習するよう指導する。                                              |
| 地球    | 正答率は、市平均を9.6ポイント下回った。<br>●火山の形について火成岩をルーペでの観察し「マグマのねばりと火山噴出物の色」を問う設問では、市平均を15.1ポイント下回っている。<br>●火山の形について「深成岩火山岩を比べでき方の違い」を問う設問では、市平均を14.0ポイント下回っている。         | ・教科書の図や写真、NHK教材を活用したり、岩石鉱物など実物を観察するなど身近で分かりやすい教材を利用し理解させる。<br>・本時の学習内容や重要語句は、振り返りの時間に必ず確認させたり、できるだけ多くの生徒を指名し、一人一人の学習内容の定着を確認する。                                                                      |
|       |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                      |
|       |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                      |

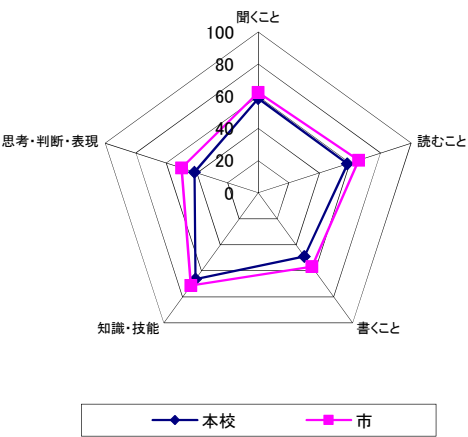


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 聞くこと     | 58.6 | 62.4 | 59.8 |
|     | 読むこと     | 58.4 | 65.7 | 58.5 |
|     | 書くこと     | 48.9 | 56.8 | 43.5 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 66.3 | 71.2 | 65.3 |
|     | 思考・判断・表現 | 41.7 | 50.1 | 40.6 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域   | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                       |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聞くこと | 正答率は、市平均を3.8ポイント下回った。<br>○「内容理解」や「対話文の応答」の設問では、市や全国平均を上回るものもあった。<br>●「さまざまな英文の聞き取り」では、市平均を10ポイント程度下回る設問があった。<br>●「対話文の応答」の、「英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている」の設問では、市平均を9.7ポイント下回っている。                                                               | ・自分で発音できない単語を日常会話の中で聞き取ることは難しいため、単語や文章を正確に読めるように指導をしていく。<br>・「英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを書いている」の設問では、市平均と比べて無回答率が高く、苦手としている生徒が見られた。まずはスピーキングで自分の知っている単語や基本文型を使って答える活動を行い、それを書く活動につなげることで苦手意識を軽減させていく。 |
| 読むこと | 正答率は、市平均を7.3ポイント下回った。<br>○「対話文の情報を読み取り、その内容を理解する」設問では、市平均を5.8ポイント上回っている。<br>○「英語での発表のための原稿を読み、概要を捉えてそのスライドを選ぶ」設問では、市平均を4.2ポイント上回っている。<br>●「英語のメール文を読み、その概要を捉えて英文を完成させる」設問では11ポイント、「対話を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選ぶ」設問では8.4ポイント市平均を下回っている。 | ・音読練習を繰り返し行うことで、単語や文章を正確に読めるようにしていく。<br>・語彙不足や基本文型の理解が不十分であるために、英文の内容を読み取ることが難しいということがないよう、基礎的・基本的な内容の定着を図っていく。<br>・英文の内容の概要を理解することができるよう、長文の読解力を高める指導を充実させていく。                                |
| 書くこと | 正答率は、市平均を7.9ポイント下回った。<br>○「単語の並べかえによる過去進行形の英作文」の設問では、市正答率を1.0ポイント上回っている。<br>●「3文以上の英作文」を書く設問では、正答率が市平均を1文めで8.9ポイント、2・3文めでは19ポイント下回り、無回答も39.4%いたことから、書くことを苦手としている生徒が多い。                                                                       | ・基本文型を用いた単語の並びかえ問題や短い英作文など、書く学習を意図的に取り入れていく。また、前述の活動によって文のパターンを確認し、さらに語彙力を上げることによって、自分の考えや意見を論理的に伝えられるよう、指導を工夫していく。                                                                            |
|      |                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                |
|      |                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                |
|      |                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                |

## 宇都宮市立宝木中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                   | 取組の具体的な内容                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                 |
|--------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ◎「わかる授業」のより一層の推進         | (1)『分かる授業』の推進<br>①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な指示 | 「学校の授業がどの程度分かりますか」について<br>●1年生 79.4%(市 83.7%、昨年度 76.7%)<br>●2年生 70.2%(市 79.1%、昨年度 78.8%)<br>●3年生 69.2%(市 81.4%、昨年度 87.2%)                  |
|                          | ②話し合い活動の積極的な導入                                    | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について<br>○1年生 85.5%(市 81.6%、昨年度 68.3%)<br>●2年生 73.4%(市 81.2%、昨年度 83.8%)<br>●3年生 79.8%(市 83.2%、昨年度 87.2%)        |
|                          | ③「ふりかえり」活動の徹底                                     | 「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について<br>●1年生 69.5%(市 76.3%、昨年度 69.2%)<br>●2年生 49.2%(市 70.5%、昨年度 68.7%)<br>●3年生 66.3%(市 71.8%、昨年度 75.2%) |
| ◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実 | (2)家庭学習の習慣化                                       | 「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について<br>○1年生 45.8%(市 40.0%、昨年度 35.0%)<br>●2年生 25.8%(市 32.0%、昨年度 49.5%)<br>○3年生 40.4%(市 37.6%、昨年度 59.2%)           |
|                          |                                                   | 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について<br>●1年生 48.9%(市 56.5%、昨年度 45.8%)<br>●2年生 43.5%(市 49.5%、昨年度 53.5%)<br>●3年生 58.7%(市 62.5%、昨年度 66.4%)            |
|                          |                                                   | 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について<br>○1年生 63.4%(市 72.4%、昨年度 60.8%)<br>●2年生 58.1%(市 65.3%、昨年度 71.7%)<br>●3年生 63.5%(市 72.7%、昨年度 84.8%)          |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

#### (1)『わかる授業』の一層の推進に向けて

・「学校の授業がどの程度分かりますか。」について肯定的回答をした生徒はどの学年も市平均を下回っていることから、生徒が自ら学習に取り組む姿勢や各教科の基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を徹底していく。

・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付ける。

・「宇都宮モデル」を活用した授業改善(本時のねらいの確実な提示【はっきり】とねらいに基づくふりかえり活動の徹底【すっきり】、生徒の考えを引き出し、思考を深める発問の工夫【じっくり】)を行い、確かな学力を育成する。

・理解の状況に応じた繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導など、個に応じた指導を充実させる。

・教師が授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、生徒が学習内容や思考過程を振り返ったりする場を適切に設定するなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を充実させる。

・互いを認め合い、協力・協働して課題に取り組む学び合いを充実させるために、グループ活動や発表の場面などにおいて、活動が深まるよう教師がコーディネートを工夫する。

#### (2)家庭学習のより一層の充実にに向けて

・「自分で計画を立てて家庭学習に取り組むでる。」と回答した生徒はどの学年も市平均を下回っている。復習や定期テストに向けた助言をしたり、テスト後のやり直しの大切さを伝えたりし、自ら学習に向かう姿勢を全校生徒に身に付くよう、根気強く指導していく。

・保護者会、三者懇談、教育相談などを活用し、学習に関する情報提供を充実させることで、学習に対する家庭の関心が高まるようにしていく。

・自分立てた目標を達成するために粘り強く家庭学習に取り組めるよう、助言やがんばりを認める指導を充実させる。

・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら、学習習慣の確実な定着を目指す。